

会 議 録

会議の名称	令和2年度 第5回小牧市市民活動促進委員会				
開催日時	令和3年3月22日（月）午前10時から午後0時まで				
開催場所	小牧市役所本庁舎 601会議室				
出席者及び 欠席者	<p>○出席者</p> <p>【委員】 秦野委員長、戸成委員、古谷委員、星野委員、大木委員、舟橋委員</p> <p>【事務局】 伊藤支え合い協働推進課長、大塚市民協働係長、高橋 関市民交流テラス事務局長</p> <p>○欠席者 三島副委員長、竹中委員、岩淵委員、秋田委員</p>				
傍聴の可否	■可 □否	傍聴定員	5名	傍聴人数	なし
会議次第	<p>【内容】</p> <p>1 小牧市地域に還元チャレンジ助成金の創設について</p> <p>2 令和2年度市民活動推進事業報告について</p> <p>3 令和3年度市民活動推進事業計画（案）について</p> <p>4 その他</p>				
問合せ先	小牧市役所 健康生きがい支え合い推進部 支え合い協働推進課 市民協働係 電話番号 (0568) 76-1629 (直通) ファックス番号 (0568) 75-8283				
会議内容	別紙参照				

会 議 内 容

1 開会

2 議題

(秦野委員長)

それでは、次第に従って進めていく。次第1の小牧市地域に還元チャレンジ助成金の創設について、事務局より説明を求む。

小牧市地域に還元チャレンジ助成金の創設について

*資料に基づき事務局より説明

(秦野委員長)

新しい制度ということで質問等、不明な点について伺う。

(古谷委員)

今までのものから発展的に拡大、充足したと思う。支援の仕方によってうまくできるかできないかの生命線の部分がワクティブこまきのサービスによるアウトリーチ支援というところだと思う。

このことについて、具体的な説明を求める。例えば、期間中、どんな人が何回くらいどういう形で手を挙げるか。

(事務局)

アウトリーチ支援だが、今までは催し物や定例会に参加して活動の内容を見させてもらっていた。しかし、それだけでは団体の相談とか支援にならないことがあったので、団体にイベントだけではなく打合せやワクティブこまきのアクティブスペースを使ってもらい、事務局も積極的に参加し、段階的に団体の話を聞きながら支援を行った。今後も単発的な支援と伴走支援の2種類の支援を行う準備している。今年度、ボランティアネイバーズのお力を借りて伴走支援用のシートをたたき台として作った。

今年度は実施できていないが、年間の計画を立て、団体と話し合いをしながらやっていけたらと思う。

(古谷委員)

従来は、定例的な場所に行き、内容を申告していた。そのためにはもう少しきめ細かく評価的な基準もいるだろうから支援シートを使う。団体としてもきめ細かいところ、自分たちの気が付かないところに気が付いてもらえるのでありがたい支援である。

(事務局)

補足として、来年度の予定として年間40回以上を予定している。

決まった報告や支援の結果、団体の抱える悩みや課題をまとめるシートも用意しているのでアウトリーチ支援を行った後、シートに記入していただき月例報告と共に支え合い協働推進課に提出していただくことで、ワクティブこまきのスタッフ内及び市との情報共有を図っていく。

(古谷委員)

大変きめ細かいところまで配慮をいただき感謝する。

(戸成委員)

地域に還元される助成金についてはよく理解した。はじめる部門がなくなるが、地域でこの生涯学習系ではなく、社会課題系で団体を立ち上げたいとかこういう問題を取り組みたいというようなそういう動きというのは、テラスを含めて相談はないのか。

(事務局)

相談がないというわけでは無い。ボランティアマッチング制度もワクティブこまきに移転してから作り、ボランティアが主体でそういった方々の声もいただいている。地域に還元チャレンジ助成金については、これまで通り市民活動系の団体を立ち上げたいという方も申請できるようにしてある。ターゲットを生涯学習団体と趣味的な活動を行う団体にしたということについては、団体の立場からすると、市民活動という言葉が付いていると、市民活動推進条例の定義によって、自分たちには関係ないと取られるのかなと思い、まずはそういった団体もチャレンジできるということ、地域に還元することによって地域づくりの担い手になるというものにしてるので名前を変えた。従来通り市民活動や公益活動がしくて団体を立ち上げる場合もこの助成金は使えるようにしてある。

(星野委員)

生涯学習系の団体が自団体は市民活動じゃないから手を挙げられないのではと考える心配はある。いくつか手ごたえはあるのか。

(事務局)

今年度の市民活動助成金の募集期間中、新型コロナの緊急事態宣言下、マスク不足という問題に対して特別措置を設けたところ、手芸サークル活動が中心の2団体が手を挙げてくれた。うち1団体は、15団体の集まりが一つの団体となって申請。活動が新聞に取り上げられやりがいを感じたことが、一つのきっかけになり、団体によっては自分たちの活動もやり方を変えれば社会の役に立ち、活動に生きがいを持って転換をしていただけないかという狙いがある。

(秦野委員長)

趣味的な活動、自分の生きがいがある人の役に立つ、小牧市民憲章の健康で生きがいのある明るいまちにしましょうとある。

非常にいい助成金だと思う。2回だけで終わりにしてしまうのではなく、次へのステップとして、これまでの市民活動助成金の部門に応募してもらおうということでしょうか。

(事務局)

事務局としては、地域に還元チャレンジ助成金が終了した時点でそこで終わりではなく、次はひろげる部門、つなげる部門の市民活動助成金、さらには行政との協働事業に展開へと、そこまでなっていていただくことを期待している。ワクティブこまきのアウトリーチ支援の中で、そこまで導いていけたらと思っている。

(星野委員)

団体の規約、定款に記載して申請する形だと、申請する団体のうち、半分が社会に還元する目的が記された団体、半分は自分たちが楽しむ目的が記された団体のように思う。

スタートの時点では定款に社会貢献と書いてなくても受け入れていくのか。

(事務局)

規約会則の内容については具体的な公益活動の内容が書かれてなくてもよしとする。申請書の内容で公益性があるか判断していく。

(星野委員)

伴走型で支援していく中で徐々に公益性を入れていけばよいのか。

(事務局)

活動していく中で、規約会則も総会で変更して社会貢献活動に介する一文も書いていただければありがたい。

(古谷委員)

大塚係長のお力添えをいただきながら、防災リーダー会を市民活動として立ち上げ、続けてこれた。大きくなれたポイントは、県下の団体に属し、愛知県、東尾張ブロックの活動と合わせながら、地域の活動も合わせてやっていくことにより、視野も広がり活動範囲も広がったこと。継続していく活動団体によっては条件の良いところも良くないところもあるが、最終的には団体で思考していくという事に尽きる。小牧だけではない活動の継続により、今の私たちの団体がある。

(舟橋委員)

申請する書類を作成することがエネルギーのいる作業で、ネックと思われる。私の経験から言えば、私はアマチュア無線の地域サークルに加わっていたが、それは趣味の団体であったが、小牧市から防災訓練に関わってほしいと依頼があり、そのお手伝いに関わったことがある。そういったように行政側から趣味の団体に協力を求めるようなアプローチの仕方があると思う。そのような方法とか、今回の助成金を出すという方法とか、こういったアプローチをしていくのが効果的かと考えながら聞かせてもらった。

(秦野委員長)

ワクティブこまきが9月にオープンし、守備範囲も、市民活動、生涯学習、ボランティア、またシルバー人材センターなども入ってきた。また、そういった大きなフィールドの中で、いろいろなアイデアをくっつける作業を期待して、この助成金への応募団体が増えることも期待したい。

(事務局)

生涯学習団体へのアプローチの話が出たので、ワクティブこまきとして補足する。生涯学習団体は大きく分けると、芸能だとか音楽などをやっている団体と、ワークショップや勉強などいろいろなカテゴリがあるが、ワクティブこまきオープン後、生涯学習団体にも登録をしてもらっている。ワークショップをやっている団体は、わりと若手の団体が多く、そういった団体は市民活動祭や図書館で行う事業などを紹介している。フォークダンスや楽器の演奏などをやっている団体には、社会福祉協議会と連携し、サロン活動へ参加や地域協議会に協力を得て参加してもらったりしている。

(秦野委員長)

助成金で地域に還元できる団体が多くなることに期待したい。

令和2年度市民活動推進事業報告について

*資料に基づき事務局より説明

(舟橋委員)

今年度はコロナ禍で、助成を受けた団体がどの程度活動ができたのか気になっている。交付団体へのフォローアップとしてアウトリーチ支援事業がある。これはそういった団体へのつながりとして重要なものだと思う。報告として件数と人数を示してもらっているが、これだけでなく、事業ごとの件数、概要が分かると良い。また、件数と人数の関係だが前年も指摘したが、人数は団体の構成員や参加者で変わるので、あまり意味のない数字に思える。それよりも、それぞれの事業がどんな内容でどんな相談があり、どんな評価だったのかなどを教えてほしい。

(事務局)

助成金交付団体の活動状況だが、コロナウイルスの感染拡大の懸念により団体も活動を絞った内容で申請してきた。例えばシニア低山登ろう会も講座は開催したが団体は今後活動していくための準備期間としての団体助成であった。

こまき視覚障がい者の会はアイコン講座という講座を行いながら自分たちのPRをする。摂食障害よりみちはオンラインサロンで開催。団体助成ひろげる部門、しきの会については、オンラインで開催した。小牧市障害者団体連絡会も、今は会議開催の見通しが立たないのでオンラインで打合せをしている。事業助成の桃花台を考える会は音楽まつりが1回中止となり活動が出来ない時期もあったが若い世代を含む取り組みを事業ではなく、チラシでの啓発活動に切り替えたいと相談をいただき、今活動している。尾張すずなり会はもともと里山で環境保全の活動をしているので特に自粛もせず団体で活動されている。

今回、申請自体がコロナの中でどういった活動をしていこうかと申請していただいたので、みなさんそれぞれ申請通りに活動されている。マスクの製作事業については年度初めにマスクは制作してそれで1年活動したということになる。報告の事業と人数については事業に参加された人数もカウントしているので実際にテラスの職員が相談を受けた内容と参加した人数は分かりにくいところもある。報告の内容については支え合い協働推進課に相談しながら内容は詰めていきたい。

(事務局)

団体から聞くところだとコロナ禍の中でどのように活動スタイルを変えていくかが課題だと思う。これは団体だけでなく、行政も民間企業にも言えることだが、どのようにコロナ禍の新生活に柔軟に合わせていくか、どのような行動スタイルに変わっていくか。団体も迷ったり悩んだりしているため、来年度はその支援も考えていかなければいけないと思う

(大木委員)

市民活動センターの利用登録が80件だが、新しく移転したワクティブこまきに再度申請し直して登録したという事か。

(事務局)

はい。市民活動センターからワクティブこまきに移転した際に再登録が必要とした。現在、約180団体の登録がある。

(秦野委員長)

協働のまちづくり実務者会議は協働事業の選考と協働研修を一日行って終わりというパターンの定型化に危惧している。職員自身が話し合う場を持つべきでは。ここが機能していればいろんな協働が進んでいくのではないか。

すぐには変えられないかもしれないが、協働についてまたみなさんと考えることができればと思う。

(事務局)

課題は事務局でも感じている。

協働というモデルがない時代に、ビルドアンドスクラップをしながら作り上げてきたが、作ったものをなかなか壊せない。市民活動促進委員会も最近協働提案事業化制度と市民活動助成金の審査が主となってきているので見直す時期がきているのかなと感じている。今年度はコロナ対策が先になってしまって市民活動促進委員会も思うように開けなかったのも、来年度以降は市民活動促進委員会をオンラインなども活用して開催しながら制度の見直しなどを進めていきたい。

(星野委員)

フリースペースの利用はどのようにカウントしているのか。

(事務局)

フリースペースの利用については目視で数えている。その他、チラシをもらいに来る、団体が立ち話で帰るなどの場合も、数えている。団体に参加人数を聞きながらカウントしている。

令和3年度市民活動推進事業計画（案）について

*資料に基づき事務局より説明

(舟橋委員)

こまき市民活動祭について、市内の関係団体が協力参画して進められると思うが、その募集方法についてわかっていることがあれば知りたい。

こども未来館や図書館のイベントスペースなどは今後の利用の仕方によっては団体の発揮の場になるのではないかと。こども未来館の子ども向けの事業として、体験交流キャンプや講座などの募集やコーディネートにワクティブこまきの関与はあるのか。イベントスペースの催し物をどのように利用する計画になっているか。

(事務局)

団体募集の方法については、前回の市民活動祭の実行委員が横のつながりもほしいということなので市民活動祭実行委員会を引き続き行っており、約10団体ほど参加してもらっている。この団体とどのようなフローを使ってどのような募集をするか話し合いを進めている。新年度からすぐに告知を出して早めに動いていきたい。こども未来館との連携については、体験型キャンプにボランティア団体が参加してもらい体験事業を行うということに関し

てワクティブこまきとしても参加する予定である。情報コーナーにチラシを設置したり団体にどうですかとお勧めしている。なかなか活動する場が少ないということもあるので団体が活動できるステージを用意するというのもこちらの支援の一つと考えている。積極的にこども未来館とは連携して団体のコーディネートをしていきたい。

(事務局)

市民活動祭は来年度助成金交付を受けた団体は参加必須となる。こまキッズフェスタは児童館が主なので募集方法は不明である。ワイワイっとまつりはウィメンズネットに加盟している11団体が参加予定と聞いている。

(戸成委員)

ワクティブこまきのスタッフは統一された制服があるのか。

(事務局)

ワクティブこまきオリジナルのポロシャツを作成し、制服として着用している。

(戸成委員)

予定されている日程について、実績報告会が5/15(土)、公開ヒアリングが7/17(土)だが、日曜開催は難しいか。

(事務局)

両日とも前後に他のイベントや事業が入っており、申し訳ないが、この予定で進めていきたい。

その他

(秦野委員長)

支え合いいきいきポイント制度は市役所本庁舎1階で交換しているのか。

(事務局)

はい。今日からポイントの交換が始まった。1年の活動に対して、2月末までの活動に対してのポイント交換ということになるので今の時期になる。

(秦野委員長)

1階での交換は今日から始まっていつまでか。

(事務局)

3日間を予定している。その期間に来られなかった方は3階の支え合い協働推進課窓口で受付をする。

(秦野委員長)

では、令和3年度の事業を進めていただくようお願いしたい。